

スポット展「虚子と須賀川ホトトギス会」開催中です。

【開催期間】4月17日(木)～5月18日(日) -入館無料-

風流のはじめ館

2025
第28号
5月号

<https://s-furyu.jp/>



四季の移ろいや自然の事象を素直に見つめ、客観的な描写による俳句を数多く詠むとともに俳人の育成にも力を入れた高浜虚子。俳句革新運動を進めた正岡子規の亡き後の俳句界を、河東碧梧桐とともに担いました。須賀川の俳句界は多くが虚子の弟子、原石鼎に師事していましたが、戦中に虚子の高弟の麻田椎花が疎開したことにより「須賀川ホトトギス会」が結成されました。

本展では、虚子の作品と知られてこなかった須賀川のホトトギス会を紹介します。

「俳句」とは即ち芭蕉の文学だ



松尾芭蕉

俳句は沈黙の文芸である。梵鐘一打、響きはいつまでも伝わっておる。そういう句であるべきである。



高浜虚子

白牡丹といふといへども紅ほのか

正当後継者

子規から受けた感化の中で、一番大きいと思う事は、自ら待むという事でありました。自ら待む↓自分の力を信じることを。



正岡子規

牡丹画いて絵具は皿に残りけり

子規、明治26年碧梧桐、明治39年に須賀川を訪れる



河東碧梧桐

・無二の友
・俳句界のエース
・俳句で対立

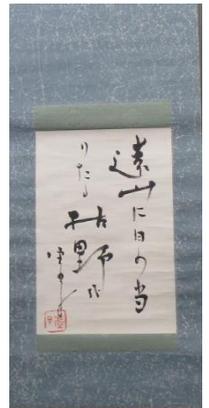
赤い椿白い椿と落ちにけり

須賀川ホトトギス会の人々

麻田椎花、矢部居中、矢部里女、高久田瑞子ら

数々の論考を執筆した虚子の句作や俳論は、須賀川の文化人に大きく影響を与え、受け継がれていきました。

展示品の紹介



遠山に日の当りたる枯野哉 虚子

これは父が好きな句だ、といっております。父の人格だ、と自ら考えている句であるかも知れません。遠山に一点の日が当たって居る。その前に広がっている枯野には日が当たってありません。それでさしつかえないのであります。ただ待む、遠山の端にある一点の日、それが父の信ずるところである。私には思われず。兎に角父はこの句を好んで短冊に半折に揮毫します。人から句を指定して来た時は、その句を書きますが、指定して来ない時は、この句を書きます。(立子)

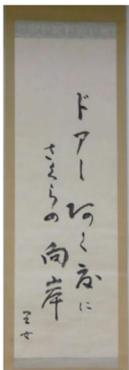
『虚子百句』より



山人のかきね伝ひやさくら狩 虚子



枯れる百日紅の青空の仰がるる 碧梧桐



ドアーひらく度にさくらの向岸 里女



俳句ポスト表彰式を開催しました。

令和6年度



牡丹賞 渡辺 圭子

神炊館の句碑の数々 蟬の羽化

赤松賞 関根 邦洋

奔流へ突き出してゐる冬木の芽

翡翠賞 平野 暢行

牡丹の影のひと揺れ風を呼ぶ

ぼたん賞 石井 絵奈

源吾ねぎけんかにまけてまげられた

あかまつ賞 菅谷 勇太

算数にイチヨウの形出てきそう

かわせみ賞 後藤 蒼士

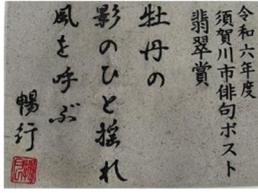
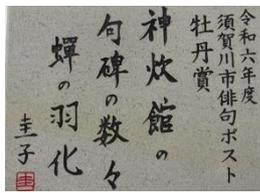
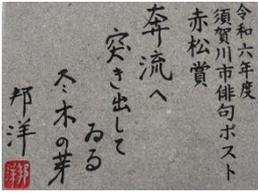
かたつむりじてんしゃにのせてはしったよ

等躬賞

須賀川市立白江小学校

令和6年度
受賞作品

各作品の作者直筆の短冊をはじめ館に展示しています



一般の部の受賞者への副賞として自筆の受賞句を須賀川産の江持石に彫った石盾を贈りました。

牡丹賞 鑑賞 (選者 高市 宏氏)

神炊館(おたきや)は須賀川市の神炊館神社のことで、由緒ある神社の境内には数多くの句碑が建てられている。神域の森は虫たちの楽園であり、夏にはうるさいほどの蟬が鳴く。この句の良ところは、数多くの句碑と数多くの「蟬の羽化」を対比させた点にある。「蟬時雨」のように多くの蟬をあらわす季語は他にもあるが、「蟬の羽化」としたこと作者独自の視点と工夫があり、これから続々と生まれてくる蟬の持続する強い生命力を感じさせた。この句は、審査員全員一致で最高点を獲得した。

※詳細は当館ホームページをご覧ください。

「やさしい はじめての俳句教室」

日時 6/23(月)・30(月) 10:00-11:30

講師 佐藤健則氏

「愉しく、美味しく、季節の茶道教室」

日時 6/20(金) 7/4(金) 7/18(金) 10:00-11:30

講師 須賀川茶道連合会(表千家)

すかがわ大人塾

講座のお知らせ

文化講演会 「蛙になった芭蕉翁 鶯になった蕪村」

日時 6/14(土) 14:00-15:45

講師 富田鋼一郎氏

後援 須賀川市

ギャラリートーク 「岸本調和、等躬、芭蕉 連歌から俳諧へ」

日時 6/9(月) 13:30-15:00

講師 鈴木邦子氏

イベントのお知らせ

◆本の貸出しできます。

芭蕉関連
俳句 句集
文学 郷土
歴史と文化
日本の暮らし
絵本など

◆俳句ポスト
お知らせ

第一回投句×切
八月二十七日(水)

投句募集

3冊まで
14日以内
借りること可。



かわせみ 翡翠

言の葉

竹 たけ

「チーッ!」と
チーッ!と
鳴く美しい鳥。
四季折々に見かけ
ますが、水辺にいる
涼しげな様子から
夏の季語としてい
ます。

「竹落葉、竹散る」
は夏の季語、「筍」
若竹、今年竹、竹の
皮脱ぐも夏。「竹
の秋」が春、「竹の
春」は秋と、ほかの
木々が黄ばむなか
で竹は青々として
います。